

【42】1400 年も使われている狭山池

大阪府南部の河内地方に「狭山池」という溜池があります。水面面積 36 万 m²、貯水量 280 万 m³ですから溜池としては非常に大きいものです。

さて、日本書紀や古事記に狭山池の名が登場します。崇神天皇とその次の垂仁天皇の時代に築造されたとのことで、現地から出土した木製の樋管に使われている材木の年代が紀元 616 年頃とわかりました。従って溜池の工事年代はそれ以降、おおむね 7 世紀前期ということになります。年代の不確かな記紀の記述が考古学的遺物で年代がほぼ正確に定められたことになり、溜池の築造年代ばかりか天皇の在位時期を定める重要な証拠にもなったのです。

この歴史ある狭山池を補強するとともに、従来の農業用水の供給から、新しく水道水の供給や洪水調節能力をも付加する近代的な改修事業が大阪府の手により昭和 63 年 12 月に着工され、10 年ほどの工期で完成しました。「平成の改修」といわれます。現代流の「多目的ダム」に生まれ変わったのです。

1400 年も使用されてきた歴史ある貴重なインフラですので、費用を惜しまず徹底的な調査が行われ、工事完成後には豊富な出土品を保存・展示・研究する「狭山池博物館」が設けられました。博物館の建物は建築家の安藤忠雄氏の設計になり、打ちっ放しのコンクリートの壁面が美しい名建築です。

狭山池ダムは今後も河内の貴重な水源として 100 年、200 年と使用され続けるでしょう。